

# みどりのこえ

春号  
2019



No.58

発行 長野県環境保全研究所

平成31年(2019年)3月15日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)

〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



## 地域と人によりそう観光=エコツーリズムを追いかけて

文・写真 海津 ゆりえ

エコツーリズム推進法が2008年に施行されて10年が過ぎた。埼玉県飯能市に始まり、今日まで15の地域が同法によりエコツーリズム推進地域に認定され、現在もいくつかの地域が認定に向けて準備を進めている。この法律は、エコツーリズムを推進したいと望む地域で首長を代表とする「エコツーリズム推進協議会」を結成して議論を重ね、エコツーリズムのコンセプト、進め方、利用する資源の保全方法などを網羅した「全体構想」を書いて国(環境省・国交省・農水省・文科省)に提出し、審査を通れば認定地域とするものである。取得後も報告と再審査があり、決して“認定取得して終わり”ではない。それだけに取得地域は日本におけるエコツーリズムの到達点を示している。1980年代後半に「エコツーリズム」という言葉に出会ってから今日まで、一貫してその研究と実践支援を行ってきた筆者は、今、熱い気持ちでこれらの地域を見つめている。

エコツーリズムとは何だろう、と時折立ち止まって考える。発祥地は主に熱帯の自然地域で、当時の行き過ぎた観光による自然や文化の破壊への警告から生まれた概念である。だが1990年に日本に上陸してからのエコツーリズムは、そ

の定義を大きく変えた。自然環境 vs 人間という二項対立で自然を捉えてこなかった日本では、自然の恵みや奥深さ、多様さ、文化との関わりなどをガイドのインタープリテーションで伝え、継承につなぐ活動と捉えた方がわかりやすい。日本の地方を旅する者は、自然に生かされてきた人々を再発見することに旅の喜びを感じる心を持っている。エコツーリズムはそのような旅を表すキーワードと言えるだろう。エコツーリズムを追いかければ、各地の魅力的な宝や人に出会えるのだ。

長野県は、ビジターセンターをエコツーリズムの拠点とする取り組みを始めた。妙高戸隠連山国立公園では、ロングトレイルで公園内を結ぼうと議論の真最中である。脊梁山脈を擁し、複雑な尾根と谷に自然と生活文化を熟成させてきた長野で、これからどのようなエコツーリズムが展開されていくのだろうか。楽しみでならない。

(かいづ ゆりえ/文教大学国際学部国際観光学科 教授)



### Contents

【巻頭言】 地域と人によりそう観光=エコツーリズムを追いかけて	1	【みどりのフカヨミ】 気候変動適応法と地域気候変動適応センター	8
【特集1】 持続可能な地域を築くための学び	2	【研究紹介】 美しいダンコウバイの分布の様子	9
【特集2】 信州の草地利用の現状をさぐる	4	【信州自然ガイド No.6】 志賀高原	10
【こんなことやってるよ】 人と馬と里山のつながり「ニコと草カッパの会」	6	【図書案内】 子どもたちに読んでもらいたい自然環境に関する本・後編	11
【新規プロジェクトの紹介】 長野県におけるカラマツ林の炭素収支の気候変動応答と森林管理による緩和策の評価	7	【開催報告・ご案内】	12